

## 線路設備モニタリング装置搭載車両「ぱとれーる」の シンボルキャラクターが決定しました

東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：小坂彰洋、以下「東京メトロ」）は、線路設備モニタリング装置搭載車両「ぱとれーる」（商標登録出願中）の営業開始に向けてシンボルキャラクターを公募していましたが、このたび最優秀作品及び優秀作品を決定しましたのでお知らせいたします。

本公募は、「走りながらレールを見守る相棒」をテーマに、鉄道の安全運行を支える取り組みをより身近に感じていただくことを目的として2026年2月4日（水）から3月27日（金）にかけて実施し、全国から多くの応募をいただきました。社内選考委員会（委員長：小川代表取締役専務執行役員）による審査の結果、最優秀作品1点、優秀作品5点が決定いたしました。

最優秀作品には、ツナシマ ハジメさま作の「もぐぱくん」が選ばれました。「もぐぱくん」は、2026年度下期より東西線車両にて営業を開始する「ぱとれーる」の車体ラッピングに活用するほか、広報物やPR活動等に幅広く展開してまいります。

東京メトロは、状態基準保全（CBM:Condition Based Maintenance）の推進に向け、線路設備モニタリング装置を活用したデータ取得や線路状態の精緻な把握を進めています。このシンボルキャラクターを通じて、お客様をはじめとするステークホルダーの皆さまに、鉄道の安全を支える保線業務や技術的取り組みをよりわかりやすく発信してまいります。

詳細は別紙のとおりです。



### もぐぱくん

ぱとれーるのシンボルキャラクター

## 「ぱとれーる」シンボルキャラクター公募結果

## 1 最優秀作品 (1点)



「もぐぱくん」

ツナシマハジメ さま 作

▲地下にもぐって活躍するもぐらをモチーフにしたキャラクターです。暗い場所でもしっかり点検できるよう、東西線カラーのメガネで設備を見守り、敏感な鼻からはレーザーを出してレールの小さなゆがみをチェックします。車輪の手足でくるくる動きながら、見えない場所で安全を支えてくれる存在で、地下設備を守る東京メトロらしさがたっぷりと表れています。その発想の分かりやすさと親しみやすさが高く評価され、最優秀作品賞に選ばれました！

## &lt;受賞者の声&gt;

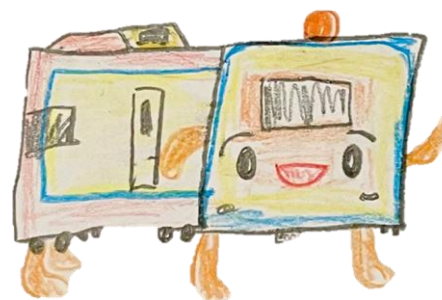
この度は最優秀賞に選んでいただき、ありがとうございます。大変驚くとともに、とても光栄に思っております。「もぐぱくん」が「ぱとれーる」の相棒として活躍し、多くの皆様に末長く愛されるキャラクターになってくれたら嬉しいです。この度は本当にありがとうございました。

## 2 優秀作品 (5点)



「ぱとるん」

大河内 健吾 さま 作



「ぱっとくん」

大河内 友貴 さま 作

▲ご兄弟で応募して下さったキャラクターです。「ぱとるん」は東京メトロの路線カラーをすべて使ったデザインやレールをイメージした縞々模様が特徴で、東京メトロらしさがたっぷりと表れています。

「ぱっとくん」は頭にパトランプがついており、しっかりとパトロールをしてくれそうな頼りがいがあります。共に親しみやすく、一緒に遊びたくなるような素敵なキャラクターです！



「メトパトリン」

ういずだみい さま 作

▲東京メトロの線路の健康状態を見守る、小さなレールの妖精です。かわいさだけでなく、最新テクノロジーを感じさせるデザインで「ぱとれーる」のコンセプトが表されています！



「さちまる」

鈴木 真菜 さま 作

▲地面に穴を掘って暮らすイタチをモチーフにしたキャラクターです。みんなが安心して笑顔で使える地下鉄を目指し、「ぱとれーる」と一緒に駆け巡ってくれる、心強いキャラクターです！



「ガタン」

後藤 凜 さま 作

◀ 電車の音から生まれたキャラクターで、小さなヒビなどを見つけると体が光り異常を教えてくれます。頭に小さなレール型のツノがあるのが特徴で、東京メトロの線路を守る現場を支えるのにぴったりな力強さを持つキャラクターです！

### 3 今後の展開

最優秀作品のキャラクターは、2026年度下期より東西線において、先頭車両及び最後尾車両（1号車及び10号車）、線路設備モニタリング装置搭載号車（4号車）へラッピングを施し営業運転を開始する予定です。キャラクターデザインについては商標登録出願中であり、広報物・イベント・ウェブ媒体など多様な施策への展開を進めてまいります。

### 4 公募に関するお問い合わせ先

ぱとれーる事務局

E-Mail : [monitoring\\_pr@tokyometro.jp](mailto:monitoring_pr@tokyometro.jp)

## 【参考】 線路設備モニタリングとは

線路設備モニタリングとは、お客様にご乗車いただいている営業列車が走りながら計測・記録できるようにした仕組みで、これまで人が現場で行ってきた線路の点検の一部を自動化することで現場作業の削減や夜間作業の効率化を可能にします。

また、これにより今まで以上に多く集まるデータを活用して、異常の兆しを早めに見つけ、保守作業をより確実・効率的に進めます。

データを取得する線路設備モニタリング装置は、主に2種類の装置があります。

### 1. 軌道材料モニタリング装置

レールや、レールを止める金具（締結装置）、まくらぎなどを画像で見守る装置です。

2種類のカメラ（形状を測るカメラ/物体をはっきり写すカメラ）を組み合わせ、設備の状態を確認します。

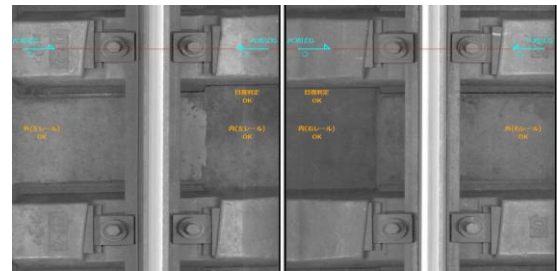
### 2. 軌道変位モニタリング装置

レールにレーザーを当てて、線路のゆがみ（変位）を計測する装置です。

計測した結果はリアルタイムでクラウドへ伝送され、線路の変化を見て「少しずつ悪くなっていないか」をつかみます。



線路設備モニタリング装置（JR 東日本提供）



モニタリング画像



ぼとれーるシンボルキャラクター

もぐぱくん

これらの装置を搭載し、  
走りながら線路の状態を見守る車両が  
線路設備モニタリング装置搭載車両  
「ぼとれーる」 だよ！